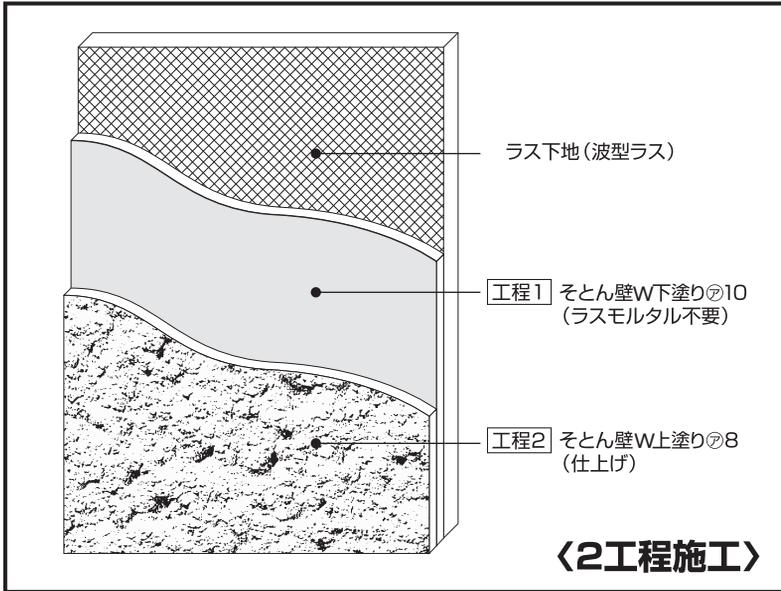


外壁 標準施工工程比較表

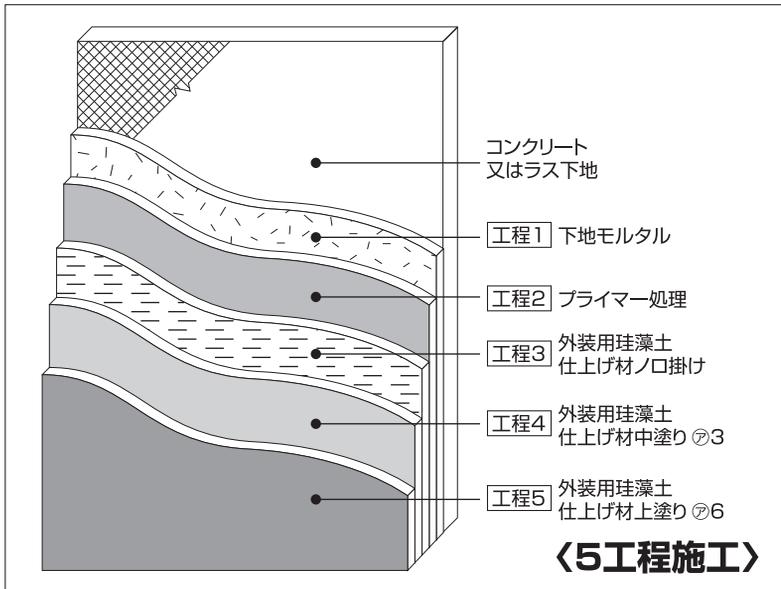
〈外装用〉「スーパー白洲そとん壁W」

専用の下塗りと上塗りの、わずか2工程で仕上がる。
上塗り材は調色済みのため、仕上げ塗装の必要がなく、
工期の短縮につながります。
また、仕上げのテクスチャーにおいても多彩なバリエーションを持ち、デザインの多様性に応えられる。
下塗り材、上塗り材共に自然素材100%である。



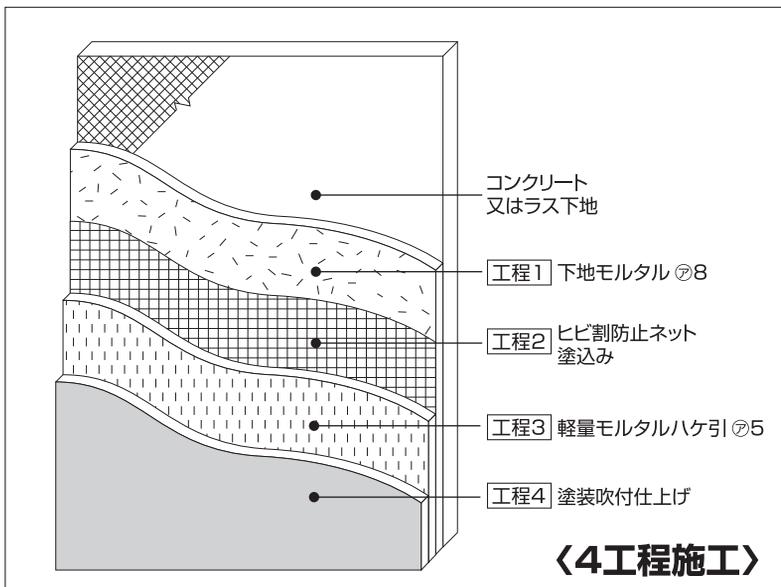
〈外装用〉珪藻土仕上げ

本仕上げは軽モルタルで下地をつくり、しかもプライマー処理した上に3回に分けて塗り付けて仕上げる。
全体で5工程、従って、かなり非省力的な仕上げ法である。
また珪藻土という自然素材を活用しているながら、下地に化学物質を多く含んだ材料が必要となっていることにも無理がある。



〈外装用〉軽量モルタル仕上げ

近年自然の川砂が入手困難になり、替って生まれたのがこの軽モルタルである。
本仕上げ材は工業化されたモルタルで、骨材に発砲スチロールが使われたり、樹脂系糊や可塑材をふんだんに用いられている。
また、この壁材はひび割れが生じ易く、ひび割れ防止のために、上塗りの際、ファイバーネットを塗りこむ必要がある。また、仕上げでテクスチャーが多様に取りれないため、別途塗装吹付けを必要とすることが、省力化の妨げとなっている。



スーパー白洲そとん壁W VS 市販モルタル壁 VS 窯業系サイディング 比較表

項目	スーパー白洲そとん壁W	市販モルタル壁	窯業系サイディング
素材構成	100%自然素材	発泡スチロール、アクリル樹脂など、化学物質を使用	セメント質および繊維質原料の他、化学物質を使用
省エネ度	主材のシラスは、マグマ熱で自然焼成されているため製造過程の焼成がなく、エネルギー消費小	製造過程で焼成等エネルギー消費大	製造過程で焼成等エネルギー消費大
断熱性	シラスは多孔質（ポーラス状）のため断熱性に優れる	熱伝導率が高いが、発泡スチロールを混入しているため断熱性はある	硬質で密度が高く、断熱性は高い
透湿・防結露	多孔質による透湿性能により結露を抑える	通気性はあるが、結露が発生しやすい	結露が発生しやすいため、通気層が必要
透湿抵抗値	2.17 m ² ・h・mmHg/g	4.25 m ² ・h・mmHg/g	
防水性	水は通さない。防水塗装不要	防水性はほとんどなし ※表面防水塗装が必要	表面塗装（工場または現場）が必要
防火性	不燃材料	不燃材料。但し、火災時にガス発生危険性あり	不燃材料。但し、火災時にガス発生危険性あり
消臭	消臭・殺菌機能をもつ	データなし	データなし
販売・流通	生産直売方式	商社・問屋ルート	商社・問屋ルート
工程・工期	2～3工程、最短3日	4～5工程、24日前後	5～7日
クラック	クラックは発生しにくい が、万一発生しても補修工法を持つ（ドラパ工法）	クラック発生することが多い	クラックは発生しにくい
汚れ	静電気は発生しないため吸着性なし。材料自身は無機質のため、カビ・藻が発生しにくい	静電気による吸着性あり。有機質によるカビ・藻の発生あり	有機質によるカビ・藻の発生あり
着色	上塗り材に着色済。トップコート不要。	無着色のため、塗装吹付が必要	塗装は必要
デザイン性	本物の素材感でこれまでにないデザインを表現。 推奨テクスチャ7種類	吹付テクスチャによるデザインのみ	種類は豊富であるが、あくまでも擬似デザイン
メンテナンス（耐久性）	機能性保持のための塗装必要なし。 （汚れ付着の場合家庭用高圧洗浄機で対応可能）	5～10年に1回塗装吹付要	7～10年で接合部のシーリング材が劣化するため、メンテナンス要
施工価格	モルタル、窯業系サイディングと同等	同等	同等
耐凍結融解	優れている（当社実験データ有）	弱い	シーリング部分の劣化から水が混入し、爆裂する可能性がある

※あくまで自社評価です。